

# 山行報告書

神戸勤労者山岳会

## 1. 参加者

田中、松井、宮島、西尾、胡桃田、千賀、庄司、  
旅田、滝川、一般1名、山本（CL）

## 2. 山域／ルート

六甲

## 3. 交通手段

公共機関

## 4. 行動記録

<入山日 2012年10月27日、下山日 2012年10月27日>

### ■2012年10月27日（土）

芦屋川 9:00 集合-9:15 発----風吹岩 10:30 -----雨ヶ峠 11:30 -----山頂 12:45 着-----山頂  
にて昼食/13:30 発-----有馬 15:00

## 5. 山行中の問題点・事故に繋がる要因

a) 予定のルート・日程で行動出来たか？

予定どおり

b) 事故に繋がりそうな要因（ヒヤリハット）が発生したか？

特になし。

c) パーティーで、山行中の事故に繋がる要因につき、山行後検討したか？

全員に確認。特に事故に繋がる懸案事項は無いため、検討なし。

## 6. その他、ルートに関する情報・気がついた事など記す

- ・ 芦屋川から有馬のコースはハイカーが多く、どうしても道がふさがれる為、ペースはゆったりしている。特に20歳代の若い世代のハイカーが多い。年々増加していると思われ、ハイクブームを実感した。有志での有馬入浴は、銀泉がメンテナンス中であった為、金泉は混雑していると想定し、今回、入浴は取りやめた。銀泉の向かいに、しゃれたレストランが新設されていたため、そこで、チームビルディングを実施した。

スマートフォン GPS 検証について。

今回有志でのスマートフォン GPS 検証を実施した。

【目的】最近、スマートフォンの機能が向上し、登山時にどの程度利用可能かを検証すべく、有志が持参した、スマートフォンで検証する。

### 【実施内容】

1. 個別の検体及び、使用アプリを確認する。
2. 動作開始時にの電池残量及び、定点での電池残量を確認する。
3. 電池残量を最大にするため、機内モードで動作させる事にする。

【結果】(単位：％＝電池残量)

検体	キャリア	機種	アプリ	開始時 9:00	雨ヶ峠 10:30	山頂 12:45	有馬 15:00
A	DOCOMO	F-10D	山旅+ロイト	90%	80%	71%	63%
B	DOCOMO	未確認	山旅+ロイト	97%	85%	74%	68%
C	SB	iPhone4S	国土1	89%	70%	61%	47%
D	SB	iPhone4S	フィールドアクセス	90%	64% *1	63%	58%

\*1:検体 D の携帯は、雨ヶ峠まで通常モードであった。

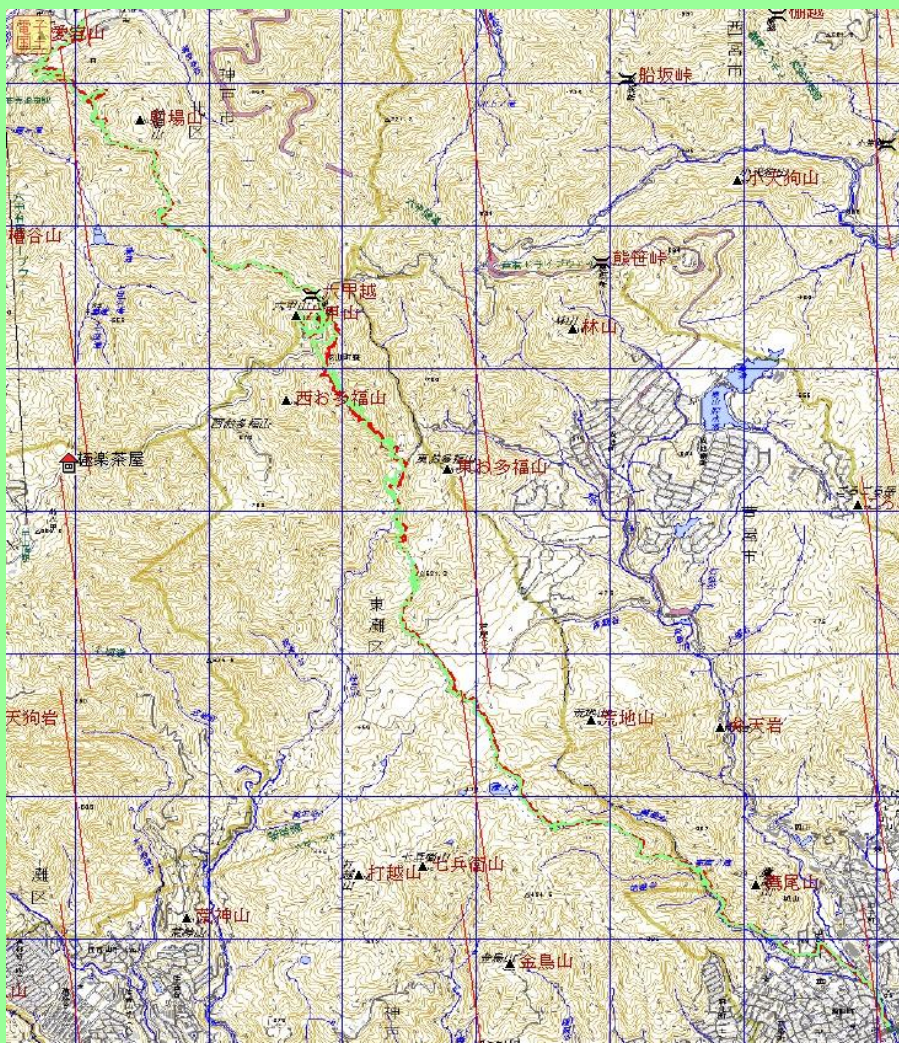
それぞれの使用方法が差異がある事や、操作方法に不慣れな事から統一的なデータは得られなかったが、気付いた点について以下の通りとする。

- ・満充填の状態で機内モードでの使用であれば、ある程度電池残量は持ち、実用可能である事が確認できた。
- ・1 検体の GPS データ軌跡は、大きく跳ねており、本番での使用に困難であると感じた。それぞれの検体及び、

以下、検体 A スマートフォン (F-10D) と、GPS 専用機 (ガーミン eTrex Vista HCx) との GPS 軌跡データの比較を実施した。

緑：スマートフォン (F-10D) 赤：GPS 専用機 (ガーミン eTrex Vista HCx)

図 1. 全体図：マクロ的には、専用機と同様の軌跡を描いているように見える。



ミクロ的には、一部、データが暴れている点が見受けられた。

図2. 雨ヶ峠付近：休憩中のデータが、専用機に比べ、バラツキが大きい。



図3. 山頂付近：山頂手前のデータが専用機に比べ、バラツキが大きい。



他方、上記以外は、全て専用機と同様の軌跡をたどっていた。

【考察】

- ・機内モードの使用であれば、電池残量に関しては、日帰り登山の使用可能である。
- ・データの精度においては、まずそれぞれの携帯機種による差が大きいと感じる。よって、個人が保有している、携帯固有の誤差を事前に確認した上で、それぞれが使用可能かの判断を行う必要がある。

- ・個人的には、ある程度は使用可能であると判断した。専用機の代替機とはいかないまでも、緊急時の保険程度の利用は可能ある。その際には、今回の誤差の程度を鑑み、進むべき方向をある頻度で確認しながら実施すべきと思われる。

報告者氏名 山本

2012年 10月 27日